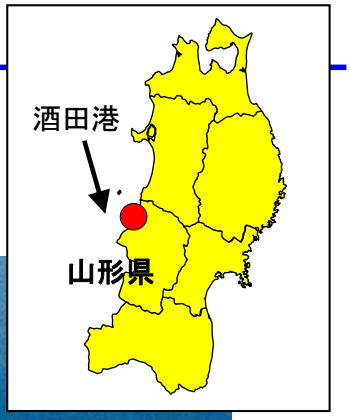
酒田港 外港地区 多目的国際ターミナル整備事業

○酒田港の概要

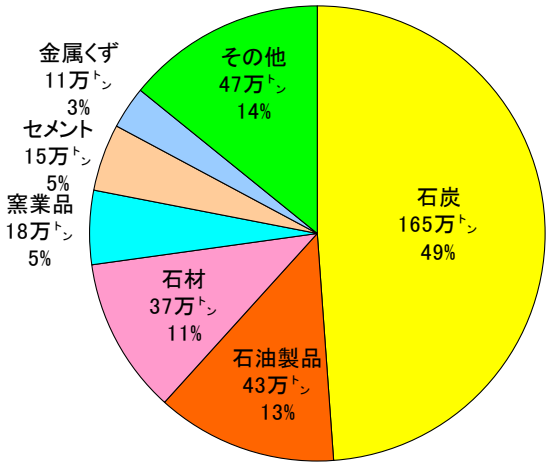
・山形県唯一の重要港湾（S26年指定）
・韓国（釜山港）との定期コンテナ航路開設（H7年）
・リサイクルポート指定（H15年）に伴い関連企業が立地



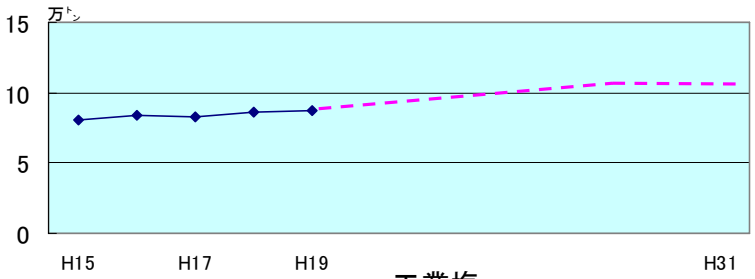


○酒田港の取扱貨物

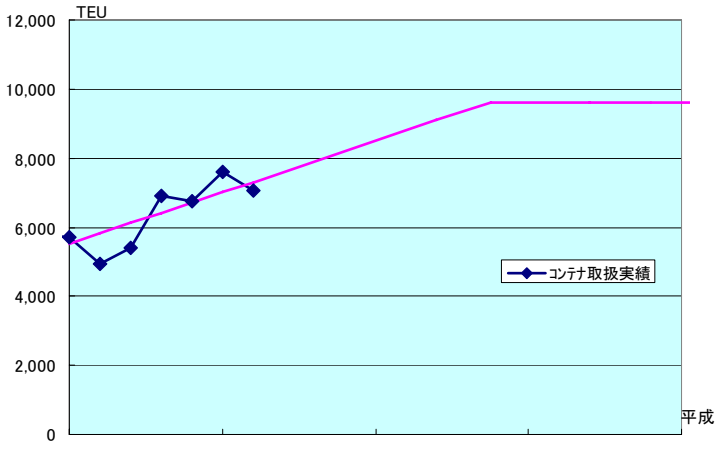
H19年取扱貨物量：337万トン



外港地区岸壁（-14m）取扱貨物量



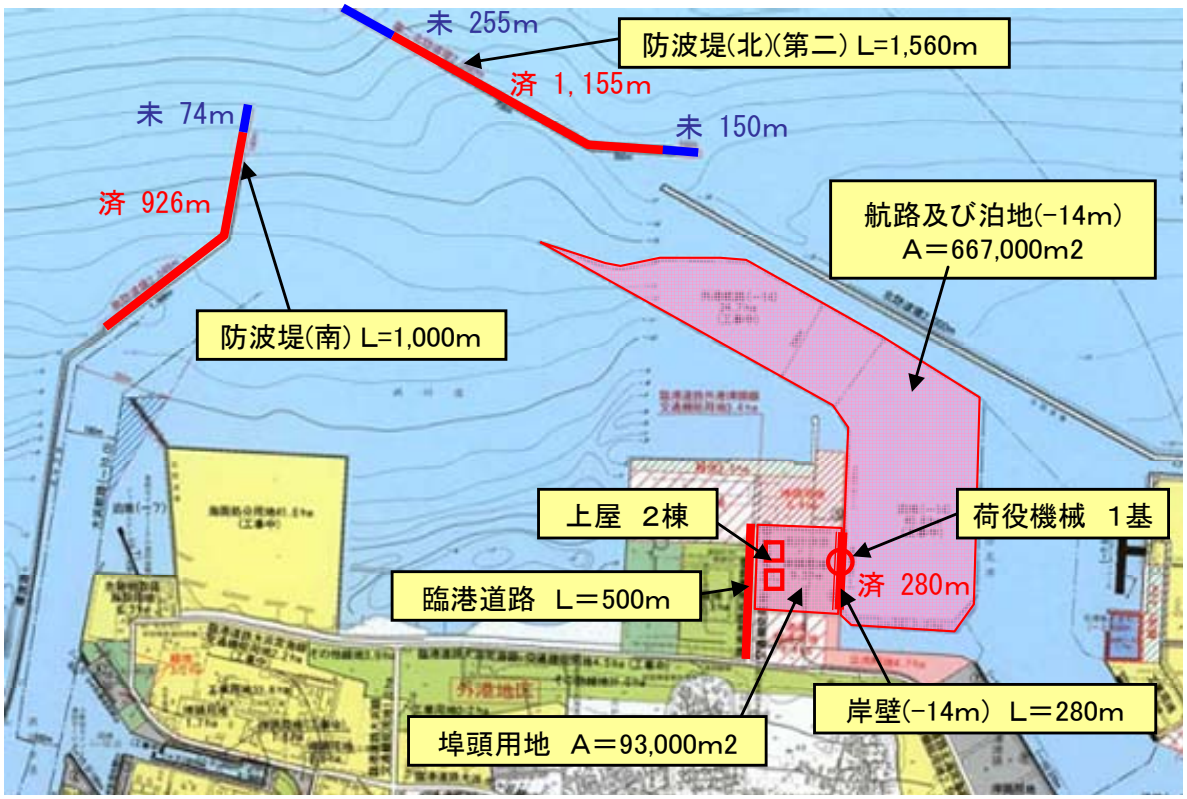
工業塩



コンテナ貨物

○事業目的

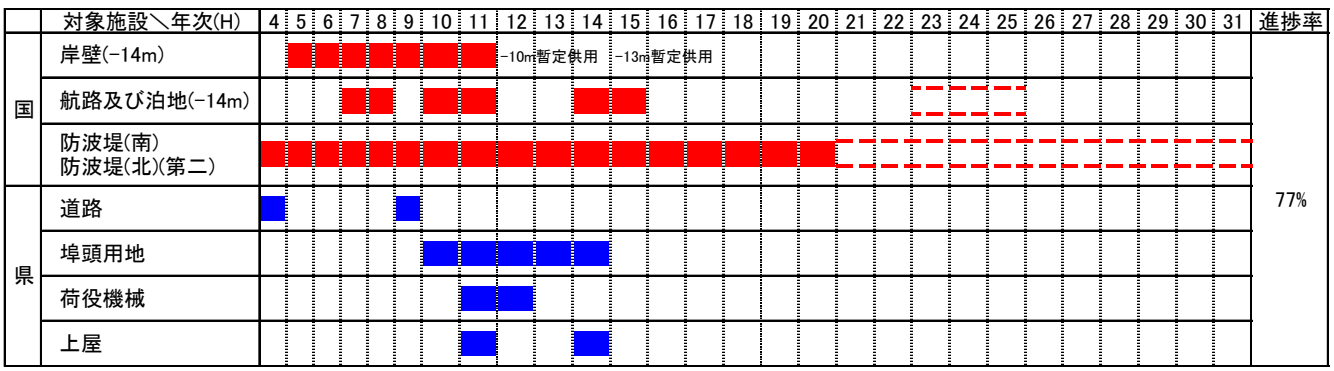
【目的】・船舶の大型化への対応
・県内のコンテナ貨物への対応



3

○事業概要及び進捗状況

中心的施設	岸壁 (-14m)	H5～11年度	国
関連施設	航路・泊地、防波堤	H4～31年度	国
	埠頭用地、臨港道路、上屋 等	H4～14年度	県
事業費	193億円(H20年度迄 投資済額:149億円、進捗率:77%) (H15年度迄 投資済額:145億円、進捗率:73%)		
	国	165億円(H20年度迄 投資済額:121億円、進捗率:73%)	
	県	28億円(H20年度迄 投資済額:28億円、進捗率:100%)	



4

○前回評価との比較

◆前回評価時費用便益比との比較

・前回評価時　B／C＝1．5

・今回評価時　B／C＝1．4

◆前回評価からの変更事項

○事業費の変更

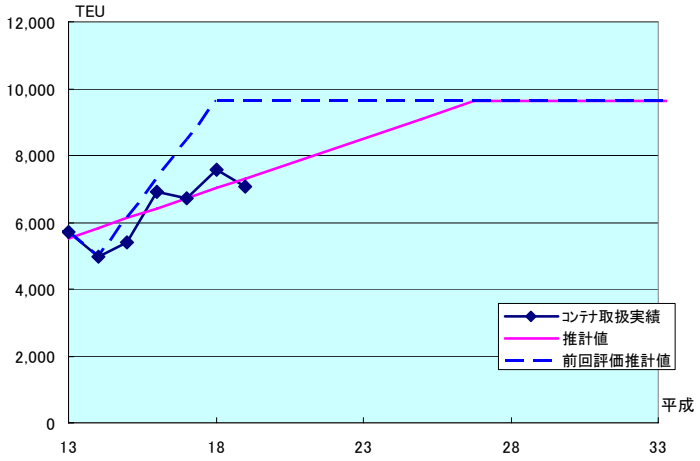
・防波堤事業費における当該岸壁持ち分の変更

・航路及び泊地の浚渫コストの変更

⇒ 29億円減

○将来取扱貨物量の変更

・コンテナ取扱量は近年の取扱実績を考慮し伸び率を変更



5

○便益の考え方

◆陸上輸送コスト削減（コンテナ貨物）

代替港：京浜港　　456km　→　61km

代替港：新潟港、秋田港、仙台塩釜港

155km　→　27km

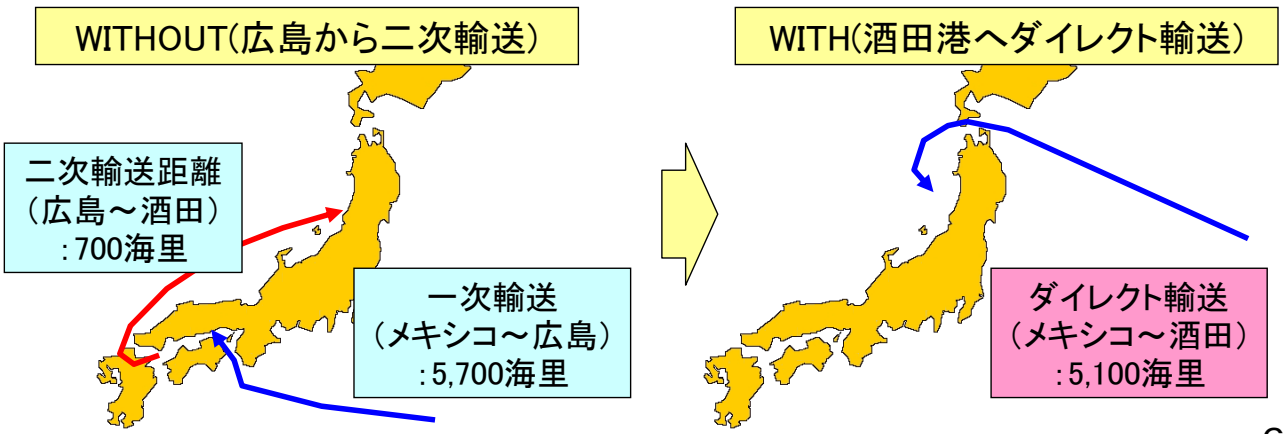
⇒ 陸上輸送距離が
395km短縮（京浜港）
128km短縮（他）

◆海上輸送コスト削減（工業塩）

5,700海里　→　5,100海里　（一次輸送）

700海里　→　0海里　（二次輸送）

⇒ 海上輸送距離が
1,300海里短縮



6

○費用便益分析結果

	事業全体の投資効果	残事業の投資効果
B:便益(現在価値化後)[億円]	354	97
C:費用(現在価値化後)[億円]	250	42
費用便益比(CBR)B／C	1．4	2．3
純現在価値(NPV)B－C[億円]	103	55
経済的内部収益率(EIRR)[%]	5．8	12．7

○定性的に把握する効果

・環境負荷の低減(CO_2及びNO_X削減)

○対応方針（原案）：事業継続

・事業の投資効果が認められる
・地元からの要望が強い
・事業が進捗

7